



平成22年11月24日

暖房器具の取扱いにご注意を！

～ 秋季から冬季に火災が多発 ～

例年、秋季から冬季にかけて電気ストーブや石油ストーブなどの暖房器具に起因する火災が多発しており、東京消防庁では暖房器具の取扱いに注意を呼びかけています。

【暖房器具について】

- ここでいう主な暖房器具とは、石油ストーブ、石油ファンヒータ、ガスストーブ、ガスファンヒータ、電気ストーブ、ハロゲンヒータのことをいいます。

【主な暖房器具の火災発生状況】

- 1 最近5年間では896件の火災が発生し、死者69人、負傷者570人と多くの方が受傷しています。
- 2 最近5年間の発生状況を季節ごとにみると、冬季（1月、2月、12月）が567件で最も多く発生し、暖房器具を使い始める秋季（9月、10月、11月）にも95件発生しており、主な暖房器具火災の7割以上（73.9%）を冬季、秋季で占めています。

【出火原因】

- 最近5年間の主な暖房器具による火災は、暖房器具に「布団や衣類などの可燃物が接触する」が471件で最も多く発生し、「エアゾール缶の破裂等により漏れたガスに引火する」が78件、「洗濯物等の可燃物が落下する」が76件の順に火災が発生しています。

【火災を防ぐために】

- 1 衣類などの可燃物の近くで使用しない
 - ストーブの上で洗濯物を乾燥すると、落下した時、火災となる恐れがあることから、カーテンや衣類・布団・ふすまなどのそばでは使用しないようにしましょう。
- 2 エアゾール缶などをストーブ・ファンヒーターの上やそばには置かない
 - エアゾール缶などを使用中の暖房器具の上や近くに放置していると、放射熱や熱伝導で過熱され、缶の内圧が上昇して破裂し、爆発するおそれがあります。
- 3 寝るときや外出するときは必ず火を消す
 - 寝返りなどで布団が電気ストーブやハロゲンヒータ等に接触して火災となるおそれがあるので、寝るときはスイッチを切りましょう。
 - 電気ストーブ・石油ファンヒータ等は、長期間使用しないときには、誤ってスイッチが入ることを防ぐためにコンセントを抜きましょう。

※ 詳細は、別紙資料を参照してください。

問い合わせ先

（東京消防庁 代） 電話 3212-2111
予防部調査課 内線 5065 5067
広報課報道係 内線 2345～2350

【別紙】

＜最近5年間（平成17～21年）の主な暖房器具による火災の状況＞

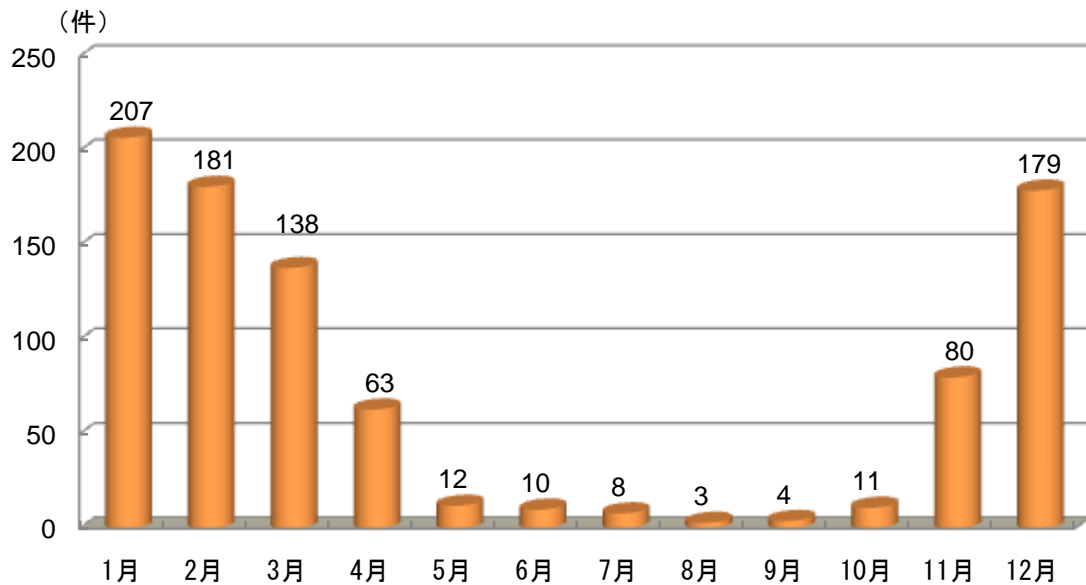
1 年別火災状況

年 別	火 災 件 数								焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	死 者 (人)	負 傷 者 (人)
	合 計	建 物					船 舶	そ の 他				
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や						
合 計	896	887	73	78	194	542	1	8	15,666	4,958	69	570
平成17年	211	208	22	17	37	132	-	3	4,707	1,424	16	119
平成18年	191	189	15	24	39	111	-	2	3,683	844	9	146
平成19年	150	149	9	11	37	92	-	1	2,221	706	11	101
平成20年	197	196	15	16	46	119	1	-	3,144	1,168	15	135
平成21年	147	145	12	10	35	88	-	2	1,911	816	18	69
平成22年	83	83	6	4	23	50	-	-	1,245	254	3	41

注1 合計欄の数値は、平成17年から平成21年の合計値です。

2 平成22年の数値は9月31日までの速報値で、後日変更される場合があります。

2 主な暖房器具による月別火災の発生状況（最近5年間）



3 主な暖房器具別の火災発生状況

年 別	合 計	電 気 ス ト ー ブ	石 油 ス ト ー ブ	ハ ロ ゲ ン ヒ ー タ	ガ ス ス ト ー ブ	石 油 フ ァ ン ヒ ー タ	ガ ス フ ァ ン ヒ ー タ	温 風 機
合 計	896	486	174	114	53	33	19	17
平 成 1 7 年	211	109	42	24	23	6	2	5
平 成 1 8 年	191	100	42	26	9	8	5	1
平 成 1 9 年	150	83	24	17	7	9	4	6
平 成 2 0 年	197	109	32	33	9	6	4	4
平 成 2 1 年	147	85	34	14	5	4	4	1
平 成 2 2 年	83	48	10	13	6	0	4	2

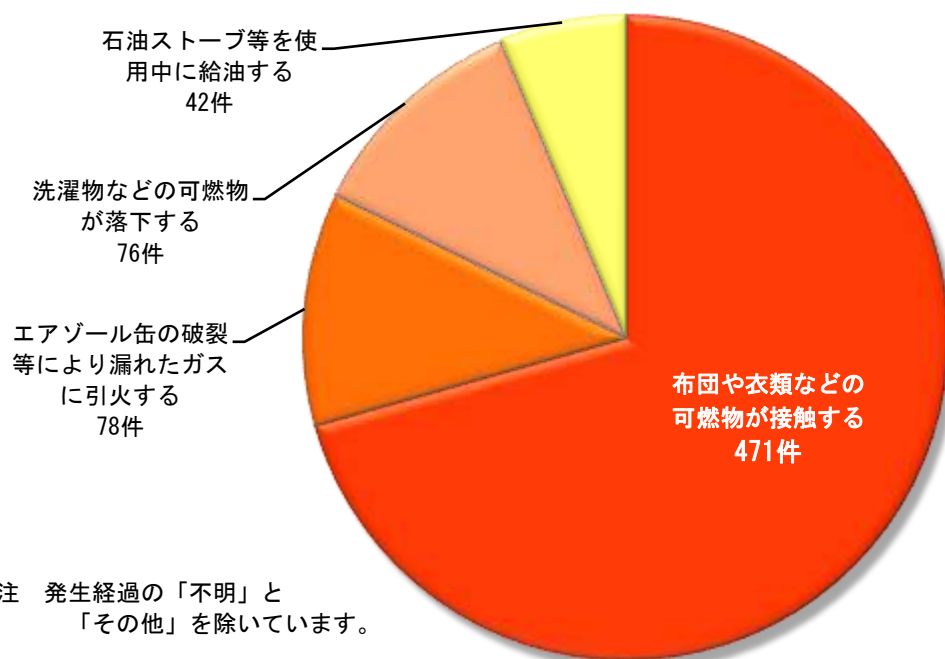
注1 合計欄の数値は、平成17年から平成21年の合計値です。

2 平成22年の数値は9月31日までの速報値で、後日変更される場合があります。

4 発生経過別火災の状況（最近5年間）

発 生 経 過 別	合 計	可 燃 物 が 接 触 す る の	布 団 や 衣 類 な どの	に よ り 漏 れ た ガ ス	エ ア ゾ ー ル 缶 の 破 裂 等	落 下 す る	洗 濯 物 な どの 可 燃 物 が	に 給 油 す る	石 油 ス ト ー ブ 等 を 使 用 中	そ の 他	不 明
合 計	896	471	78	76	42	222	7				
電 気 ス ト ー ブ	486	334	4	42	-	105	1				
石 油 ス ト ー ブ	174	27	32	24	38	50	3				
ハ ロ ゲ ン ヒ ー タ	114	76	-	3	-	34	1				
ガ ス ス ト ー ブ	53	31	5	7	-	9	1				
石 油 フ ァ ン ヒ ー タ	33	2	16	-	4	10	1				
ガ ス フ ァ ン ヒ ー タ	19	-	19	-	-	-	-				
温 風 機	17	1	2	-	-	14	-				

5 主な暖房器具の発生経過別火災の状況（最近5年間）



【火災事例】

事例1 「ハロゲンヒータに可燃物が接触して出火した火災」

出火時分 平成20年2月 3時ごろ
出火場所 府中市
用途等 共同住宅 耐火造 6/0 延 653 m²
防火管理 非該当
被害状況 建物ぼや ハロゲンヒータ1、タオル1、床若干焼損

概要

この火災は、共同住宅の4階居室から出火したものです。

出火原因は、火元居住者の女性が入浴前に、バスタオルを暖める目的でハロゲンヒータの前に置いた際、ヒータのメッシュガードに接触していたため、出火したものです。

発見及び初期消火は、火元居住者が入浴中に自動火災報知設備が鳴ったので、居室内を確認するとハロゲンヒータから30cmほど炎が上がっていました。台所から鍋に水を汲みハロゲンヒータにかけ、炎がおさまってから浴室に移動して、シャワーの水をかけて消火しました。

通報は、火元建物向かいの共同住宅3階の居住者が就寝中、自動火災報知設備の音で目が覚め、周囲を確認していると、向かいの共同住宅の窓ガラス越しに炎と煙を確認したので、携帯電話で119番通報しました。

写真1-1 出火室内の状況



写真1-2 ハロゲンヒータの状況



【火災事例】

事例 2 「使用中の石油ストーブに洗濯物が落下したため出火した火災」

出火時分 平成 20 年 2 月 17 時ごろ

出火場所 足立区

用途等 住宅 防火造 2/0 延 100 ㎡

被害状況 建物部分焼 1 棟 1 階 2 ㎡、天井 10 ㎡焼損 負傷者 1 人

概要

この火災は、住宅の 1 階リビングキッチンから出火したものです。

出火原因は、火元者が洗濯物を室内で乾かすために、石油ストーブの上方にあるカーテンレールに吊るしていた洗濯ハンガーの洗濯物が、石油ストーブに落下し出火したものです。

発見及び初期消火は、近隣居住者が自宅 1 階に居ると、窓越しに炎が見えたので、家族に知らせた後、付近住民に火災を知らせるため「火事だ」と叫びながら呼び鈴を押して回りました。火元者は別の部屋で、きな臭い臭気に気づきリビングキッチンのドアを開けた時には黒煙が充満していました。

火災に気づいた付近住民 9 人が協力して、消火器、水道ホース及び水道水をバケツに汲み消火しました。

通報は、最初に発見した近隣居住者の家族が、携帯電話で 119 番通報しています。

写真 2-1 出火箇所付近の状況



写真 2-2 石油ストーブの状況
(手前に洗濯ハンガーの針金)



【暖房器具火災の実験映像】

1 石油ファンヒーターの前にエアゾール缶と衣類を置いて過熱した場合の実験です。

(1) 石油ファンヒーターの前にエアゾール缶と衣類が置かれている状況



(2) 石油ファンヒーターによりエアゾール缶が過熱膨張し、破裂した状況



(3) エアゾール缶内のガスが漏れ、引火した状況



2 石油ストーブの上に洗濯物が落下した場合の実験です。

(1) 石油ストーブ上部に洗濯物が吊るされている状況



(2) 石油ストーブ上に洗濯物が落下した状況



(3) 石油ストーブ上に落下した洗濯物が燃焼している状況



3 電気ストーブに新聞紙が接触した場合の実験です。

(1) 電気ストーブに新聞紙が接触している状況



(2) 電気ストーブに接触している新聞紙が燃焼を始めた状況



(3) 燃焼する新聞紙から電気ストーブに燃え移った状況

